

浦賀水道と空母の航路

幅員1,400~1,750m

それを北行き、南行きの2航路に区切り、船舶は右側通行ですれ違う。

横須賀港へ入港は、北行き(北航路)

横須賀港からの出港は、南行き(南航路)

【避難範囲】

★空母の入出港時は、原子炉は稼働状態。

その際は、「避難範囲」は移動しますが

→もし、避難対象範囲が、

避難対象範囲が3キロ~5キロだとしても

応急対応範囲はより広域であるべき。

【監視体制】

★航路のそばに、モニタリングポストはなく

★空母を追尾するモニタリング・ポストも基地内の海域しか調査しない。

オンサイトの米軍任せではなく強化すべき。

→観音崎や猿島・第二海ほにMTを設置。

→ポストの追尾は半島から出る(入る)逆実施。

(巡視船の「護衛」航行は浦賀水道に入る(入る)までのようなので、それほど無理な話ではない。)

【一般的な危険の再確認】

★また、横須賀基地は、航路帯の左側にあるため

入港の為に右側を通行してきた空母は

航路帯を横切って基地へ入ります。

1988年に起きた海自の潜水艦「なだしお」と

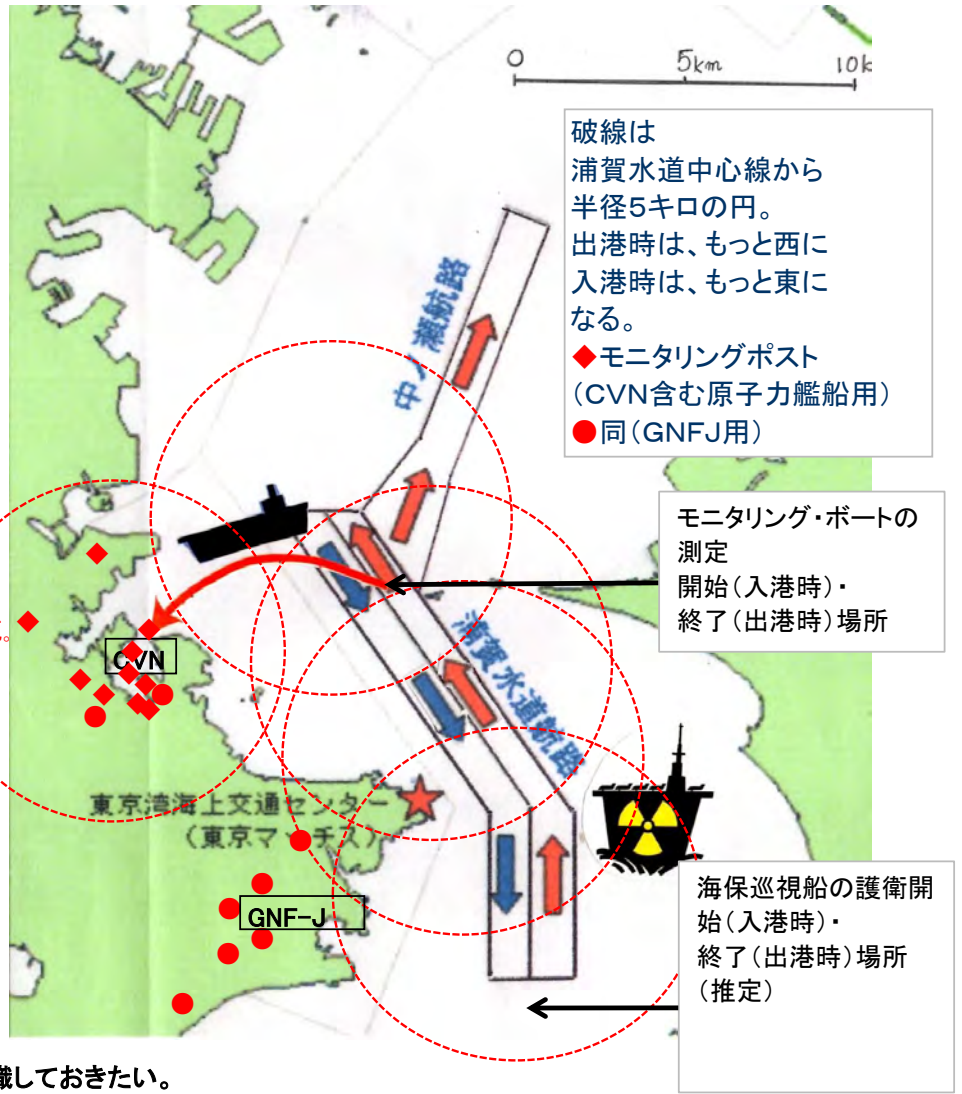
釣り船「第一富士丸」の衝突事故は

この危険な海域で起きた

★また、

原子力空母は横須賀を出港しても、

相模湾など沿岸にしばらくいることも再認識しておきたい。



2016年2月作成：原子力空母の横須賀母港問題を考える市民の会

過密な東京湾・浦賀水道を航行する 原子力空母の航路 と 問題点



出港する空母(2015年5月:ジョージ・ワシントン)

・横須賀基地を出て、浦賀水道を航行する。

撮影地の中央公園から距離は約6キロ

入港する空母(2013年8月:ジョージ・ワシントン)

・浦賀水道を横断して横須賀基地へ入る。

撮影地の中央公園から距離は約5キロ